

JSと「管診鏡」の利活用法検討

管診協

第13回総会開く

管路診断コンサルタント協会（会長＝山崎義広・三水コンサルタント社長）は10月29日、都内で第13回社員総会を開いた。新中期ビジョン2020に基づいて、会員サービスの向上、管路診断技術の進化への貢献、異業種・産学との連携を柱とする令和4年度事業計画や予算を決めたほか、役員改選を行い、山崎会長を再任した。



山崎会長

冒頭、山崎会長は「当協会は、専門書や歩掛の発刊、研修会・講習会の開催、日本下水道新技術機構との共同研究、点検調査機器『管診鏡』の販売代理店、下水道展への出展などを通して、下水

道管路のストックマネジメントや協会会員の成長に貢献してきた。今後は、協会のプレゼンスをさらに高めて、事業者や関連業界に求められる活動をしていかなければならないとの思いを強くしている」と述べた。

令和4年度事業では、昨年からスタートした日本下水道新技術機構との「分流式下水道における雨天時浸入水の調査技術に関する共同研究」において選定した調査技術を活用して実際にフィールドで実証調査を行い、研究成果をまとめていく。また、マンホール・管口点検の新技術「管診鏡」の管路施設以外への利活用に関する検討を日本下水道事業団と進めている。

さらに、改築・修繕技術評価・研究分科会や管路構造耐久性評価研究分科会、管路診断システム構築・研究分科会の活動を継続的に進め、技術成果がまとまり次第、技術冊子として発刊していく。技術講習会・研修会の開催や講師派遣などを積極的に行い、会員などへの情報発信を行っているとしている。

表彰式では、11年間にわたって技術委員を務めたコーセツコンサルタントの成戸仁氏に山崎会長が表彰状を手渡した。

議事終了後は、ウェブ併用で特別講演を行った。国土交通省下水道部の石崎隆弘・下水道事業課事業マネジメント室長が「下水道事業の最近の動向」をテーマに、来年度の下水道事業予算概算要求や老朽化対策、広域化・共同化、下水道におけるDXの推進などについて説明した。